

■ 基本目標1 区民一人ひとりが参加する地域づくり

地域福祉や地域活動の取組等の情報をチラシやリーフレット、ガイドブックで周知するほか、区役所ホームページ・YouTube等を活用し積極的な情報発信を行いました。また、地域活動の新たな担い手の育成、住民主体で行われている地域活動への支援を行いました。

主な取組

- 川崎市多摩区地域包括ケアシステム広報誌「地ケアTAMA」を発行し、地域包括ケアシステムの理解促進を図りました。また、「多摩区地域子育て情報 BOOK」、「多摩区こども相談窓口」などを発行し、多摩区内の子ども・子育て支援に関する情報を発信しました。
- 区内の障がい団体・作業所等の活動紹介や作品展示等を行う「パサージュ・たま」の開催や参加団体の日頃の活動を紹介する動画を作成するなど、障がい福祉への理解と関心を深めてもらうための取組を推進しました。
- 小学校、中学校で認知症に関する講座や講演会を開催し、若い世代に認知症の方への理解と対応を学んでもらう場を広げました。
- 子育てや介護予防・健康づくりの支援者、ボランティア養成のための各種講座を開催し、人材育成に取り組みました。
- 地域社会において重要な役割を担う町内会・自治会活動の活性化支援を行いました。



パサージュ・たま



中学校認知症講演会

第7期計画に向けて

第6回川崎市地域福祉実態調査で「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」が48.2%、地域活動において困っていることは「新たなスタッフ(担い手)が確保できない」が48.6%という結果がでています。



今後も区民が情報にアクセスしやすい環境づくりを推進する必要があります。また、依然として地域活動の担い手不足という課題もあることから、区民に地域活動により関心を持っていただき、参加する区民のすそ野を広げるため、より多くの区民に情報発信を行っていきます。

■ 基本目標2 多世代交流でつながる地域づくり

住民同士が地域の中で出会い、あいさつし合えるようなゆるやかなつながりづくりをめざし、交流の場づくり等の取組を推進しました。

また、身近な地域での交流や支え合いの活動を住民や事業者、関係機関、団体とともに推進しました。

主な取組

○子育てサロン・子育てひろばを開催し、乳幼児期から親同士の交流の場を提供し、また、育児不安や育児ストレスの軽減ができるよう、専門職による育児相談を実施しました。



子育てサロン

○子育て中の親子を対象に、公立保育所において、子どもの身体測定や家庭でも楽しめる遊びの提供、専門職による子育て講座を行い、子育ての悩みを解決し、近隣の子育て世代の仲間づくりを推進しました。



シニアの方も！
初めてのかんたんスマホ講座

○「シニアの方も！初めてのかんたんスマホ講座」を開催し、デジタルツール活用による情報格差問題の改善を図りました。

○自助・互助の意識の醸成や、身近な課題への住民主体の取組を広めていくため、課題解決のプロセスを住民と共有し、地域特性に応じた「多世代で支え合う」地域づくりを推進しました。



中野島多世代つながり
愛プロジェクト協議会

第7期計画に向けて

第6回川崎市地域福祉実態調査で地域における問題について、「地域のつながりに関する問題(近所づきあい、対面での交流、人と人との関係が希薄など)」が60.0%という結果がでています。



地域の見守り・支え合い活動の推進として、地域で活動する多様な主体との協議会や交流会等の開催を引き続き実施していく必要があります。また、コロナ禍で停滞していた地域活動の再開支援や、コロナ対策として普及したICTの利活用が困難な高齢者等に対する支援も推進していきます。

■ 基本目標3 見守り・支え合いのネットワークづくり

支援が必要な方や、自分から助けを求めることが難しい方に支援が届くよう、区民や民間事業者等と連携して、地域での見守り活動を推進しました。

また、区民・団体・民間・行政が一体となって協力・連携できるように支援体制の充実を図りました。

主な取組

- 協力事業者等から連絡のあった、異変のある地域住民の情報を基に関係部署と連携し、訪問等による必要な支援を行いました。
- 地域の実情に通じている民生委員児童委員の協力のもと、一人暮らし高齢者等の世帯状況や身体状況等の実態を把握し、安心して生活を営めるよう、見守りネットワークづくりに活用しました。
- 区内の子ども・子育てに関わる機関や団体等と連携会議及び講演会を実施し、情報の共有や課題の抽出を行いました。
- 在宅医療の推進役として配置された在宅療養調整医師が中心となり、地域の実情に応じた在宅医療・介護に関わる多職種連携の強化、在宅療養者に対する一体的な支援体制の構築、在宅医療の正しい知識と理解の浸透をめざした普及啓発を行いました。



子ども総合支援連携会議



多摩区在宅療養推進協議会
主催による市民シンポジウム

第7期計画に向けて

第6回川崎市地域福祉実態調査で日常生活が不自由になったとき手助けしてほしいことについて、「安否確認の見守り・声かけ」が41.6%という結果がでています。



多様化・複雑化する生活課題に対して、専門機関と連携して個別支援を行うとともに、地域住民、地域団体、事業者等の連携により効果的な見守り活動を実施していく必要があります。また、各種会議体で事業の進捗状況や多職種が様々な課題の共有を行い、顔の見える関係づくりに取り組み、引き続き、地域における支え合いのネットワークを強化していきます。

基本理念「多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区」をイメージして区内の障がい者施設等に通所している利用者の方に描いていただきました。

